

広島市東部地区連続立体交差事業の進捗状況及び今後の見込みについて

1 要旨・目的

広島市東部地区連続立体交差事業の整備について、現在進めているⅠ期区間工事等の進捗状況及び今後の見込みを報告する。

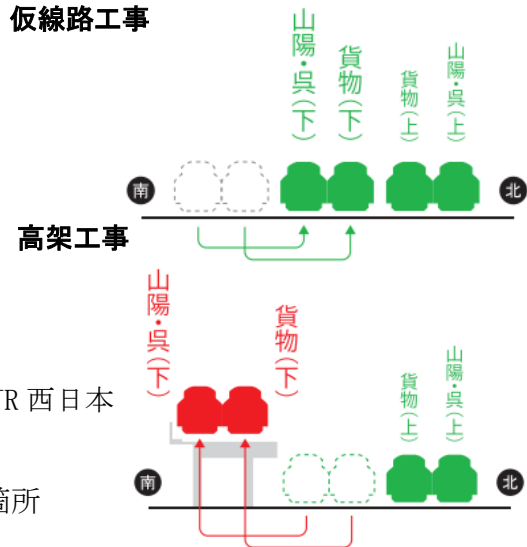
2 現状・背景

広島市東部地区連続立体交差事業は令和2年6月に県・広島市及びJR西日本の三者で工事協定を結び、現在、向洋駅周辺の鉄道高架区間（Ⅰ期）の工事を進めており、本年度中には仮線路の敷設が完了し、その後高架工事に着手する予定となっている。

この間、急激な建設資材や人件費の高騰等により、今後実施する高架工事等における事業費の増額が見込まれる。



仮線路工事



3 概要

(1) 対象者（事業者）

都市計画事業者：県・広島市、鉄道事業者：JR西日本

(2) 事業内容（Ⅰ期区間）

高架化延長：L=約2.0km、除却踏切：N=7箇所

工事期間：令和2年度～令和12年度

【高架の供用開始：令和12年春、踏切除却：令和12年度】

(3) 事業費等（Ⅰ期区間）

令和2年6月に締結したⅠ期区間工事等の協定額について試算した結果、447億円から約700億円に増額するとともに、完成時期が令和12年度から令和15年度頃に延伸する見込みであり、今後この概算額及び工事工程を基に国と協議を行い、事業費等を確定していく。

【増額：約250億円、完成時期：約3年延伸】

	事業費		工事工程	高架の供用開始	踏切除却
		(内県域分)			
現協定	447億円	262億円	令和2年度～令和12年度	令和12年春頃	令和12年度頃
変更見込み	約700億円	約420億円	令和2年度～令和15年度頃	令和15年春頃	令和15年度頃

●事業費の増額理由

〈鉄道施設（約210億円）〉

建設資材や人件費の上昇等（約190億円）、時間外労働規制に伴う週休2日制工事等（約35億円）、発生パラストの盛土材への転用、杭径・杭長の縮小等（▲約15億円）

〈道路施設（約40億円）〉

建設資材や人件費の上昇等（約15億円）、工事ヤードの借地等（約10億円）、地下埋設物の支障移転等（約5億円）、周辺道路整備等（約2億円）、その他（約8億円）

●工事期間の延伸理由

コロナ禍の影響による用地取得や地下埋設物の支障移転等の遅れ（約1年9か月）、詳細設計の結果に伴う工程精査等（約1年3か月）に伴う増加。

(4) 今後の対応

これまでの工事による仮線路状態での運行や周辺道路への影響の解消、事業効果の着実な発現を目指し、Ⅰ期区間の高架工事に着手するとともに、引き続き事業費を極力抑えるため、広島市及びJR西日本と連携し、コスト縮減策を講じていく。

また、Ⅱ期区間を含めた全体事業費や事業期間等については県・広島市・JR西日本において精査した上で出来るだけ速やかに公表する。

広島市東部地区連続立体交差事業

○事業目的

広島市の東部地区(南区・安芸区、府中町、海田町)においては、地区の中央を通る JR 山陽本線及び呉線により市街地が分断され、踏切遮断による交通渋滞が生じるなど、都市機能が阻害されている。このため、広島県と広島市が一体となって、この地域の鉄道を連続的に高架化し、「交通混雑の解消」や「安全性の向上」、「地域分断の解消」を図る。

○事業概要

区 間 : JR 山陽本線 (安芸郡海田町成本～安芸郡府中町鹿籠一丁目)
JR 呉線 (安芸郡海田町南大正町～安芸郡海田町新町 (海田市駅))
高架化延長 : 約 5.1 km (JR 山陽本線約 3.9 km、JR 呉線約 1.2 km)
除却踏切 : JR 山陽本線 (12 箇所)、
JR 呉線 (4 箇所)
概算事業費 : 約 915 億円 (関連街路整備費含む、うち県事業費 約 545 億円)
関連事業 : 都市計画道路 7 路線
土地地区画整理事業 3 地区

○事業経緯

令和元 年 10 月	都市計画事業の認可
令和2 年 6 月	I 期区間 (向洋駅周辺) の工事基本協定締結
令和4 年 3 月	向洋駅の仮こ線橋、北口仮駅舎を供用開始
令和5 年 4 月	仮線路 1 線目の切換工事完了
令和6 年 2 月	仮線路 2 線目の切換工事完了
令和7 年 1 月	仮線路 3 線目の切換工事完了
令和7 年度中 (予定)	仮線路 4 線目の切換工事後、高架工事に着手

○事業イメージ図

